



問 新たな二次救急輪番体制における救急搬送状況と課題は

社会問題化している救急車の利用方法はいかなものか、また、医療機関の状況について勤務医や看護師など、業務の過酷さによる影響はどうか。伸び続ける救急需要に対しての現場到着時間の推移や搬送先病院の選定における医療機関の状況等、課題はある。①新たな二次救急輪番体制における救急搬送状況は②救急救命士の役割拡大は③医師の働き方改革の影響についてたします。

答 救急搬送状況は大きく改善したが、課題はある

令和6年4月から三重大学医学部附属病院が二次救急輪番体制をバックアップしており、救急搬送状況は大きく改善したが、救急搬送が一時的に集中して各医療機関の救急患者の受け入れが逼迫すると、救急搬送困難事案の割合が高くなるという課題がある。また、法改正により救急救命士の活動範囲が拡大されるなど、救急救命士の必要性が高まっており、今後も計画的に救急救命士を養成し、救命率の向上を図りたい。医師の働き方改革により、これまで以上に輪番時の当直医師を自院の医師で賄うことが困難な状況が生じていることから、一定程度の影響があったと捉えている。

その他の質疑・質問

- 学校の防犯対策で、①防犯カメラ設置の安全管理体制は②警察や病院等との危機管理体制は
- 基幹統計調査は、より効果的な政策立案をするための資料となり、積極的な利活用が重要である
- ごみ焼却施設の長寿命化における評価と分析は
- 市民参加型「つ・環境フェスタ」のねらいは
- 職員の勤務時間、育児休業等改正の目的は

▶
救急救命士や医療関係者の献身的な仕事により、市民の安心・安全が守られている



問 津市における今後のM I C Eの取り組みについて問う

津市はコンベンション(国際会議)施設や宿泊施設が充実しており、非常に大きなアドバンテージがあることから、M I C Eを誘致・支援することで、大きな地域経済効果をもたらすと思われる。

そこで、県と連携し、ホームページをアップデートするなど、M I C Eの付加価値として津市の魅力を情報発信していくべきだと考えるが、津市における今後のM I C Eの取り組みは。

答 情報発信の強化はもとより、県や津市観光協会と連携していく

津市で開催された国際会議は過去3年間で11件あり、令和6年度に2件、令和5年度に7件、令和4年度に2件開催された。市としては、コンベンション等が市内で行われた場合に会場周辺のグルメガイドマップを作成・提供したり、津市観光協会と連携して会場内に観光ブースを設置し、観光パンフレットやノベルティを配布するなどのP Rを行った実績がある。今後は、情報発信の強化はもとより、県や津市観光協会と十分に連携を取りながら、さらに充実した体制でM I C Eの誘致を進めていきたい。

その他の質疑・質問

- 久居こどもの遊び場づくり事業について
- 部活動の地域展開について
- 令和8年度夏以降の取り組みについて
- 令和11年度夏以降の方向性について
- 津市の公共施設の空調管理基準について
- 本庁舎の冷房使用基準は
- 他の公共施設・学校施設の冷房使用基準は

▶
交流人口の増加、地元への経済効果が高いと思われるM I C Eとは

